



経営理念

人とのふれあいを大切に
地域の繁栄に貢献する

経営方針

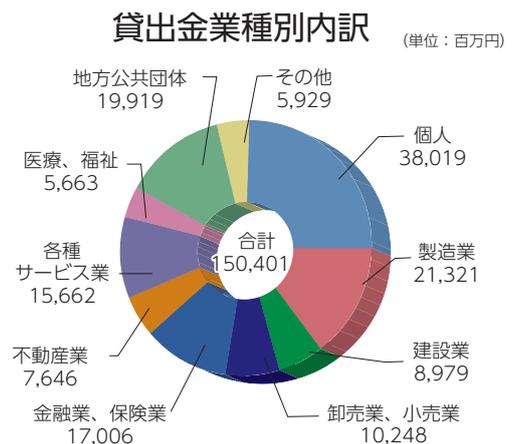
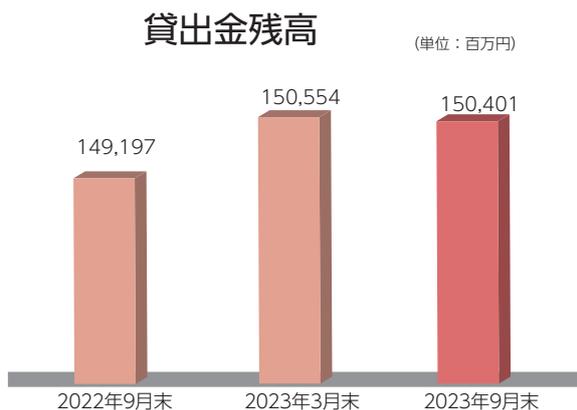
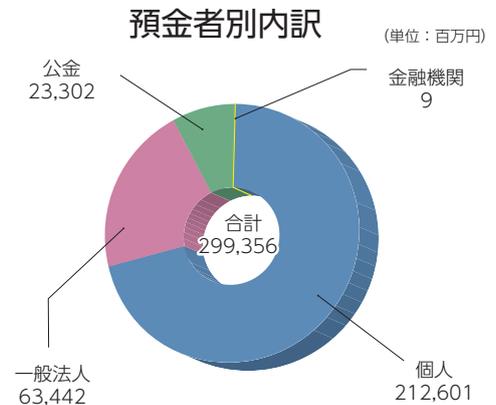
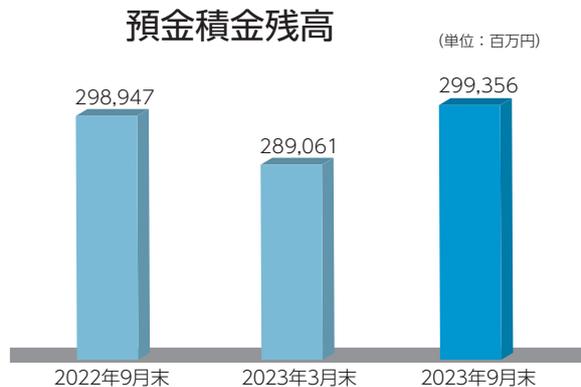
1. 顧客とのふれあいを通じ、地元の金融機関として特化浸透を図る。
2. 知性と感性をみがいて、常に自己革新し、行動力の発揮により、多様化する顧客ニーズに対応する。
3. コミュニケーションとチームワークの強化により、打てば響く職場風土を醸成する。
4. 組織に弾力性と柔軟性をもたせ、環境の変化に対応する。
5. 健全経営により、適正な利益を確保し、会員・地域への還元と職員の裕かな生活環境の確立を目指す。

2023年度上半期 業種ハイライト

預金積金・貸出金の状況

預金積金残高は、2023年3月末比で102億95百万円増加し、2,993億56百万円となりました。お取引先別では、個人預金が3億49百万円、一般法人預金が17億51百万円、公金が82億5百万円増加しました。

貸出金残高は、2023年3月末比で1億53百万円減少し、1,504億1百万円となりました。内訳は、個人向けが住宅資金を中心に5億54百万円増加した一方、事業者向けは5億7百万円、地方公共団体が2億1百万円それぞれ減少しました。



損益等の状況

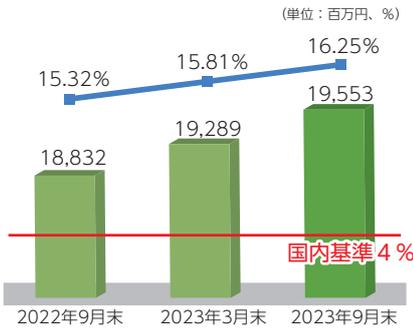
金融機関本来の事業活動のみの利益を示す「コア業務純益」は、利回りの低下による貸出金利息は減少したものの、有価証券利息配当金が増加したことにより、2022年9月末比で57百万円増加し2億69百万円となりました。また、国債等債券売却益の増加等もあり、「経常利益」は2022年9月末比で67百万円増加し3億66百万円、「当期純利益」も52百万円増加し2億52百万円となりました。



自己資本比率の状況

自己資本比率は金融機関の健全性を示す指標で、比率が高いほど経営がより健全であることを示しています。2023年9月末の自己資本比率は16.25%であり、国内基準の4%を大幅に上回っております。

自己資本比率と自己資本額



項目	2023年3月末	2023年9月末
コア資本に係る基礎項目の額 (イ)	19,432	19,691
コア資本に係る調整項目の額 (ロ)	143	138
自己資本の額 ((イ) - (ロ)) (ハ)	19,289	19,553
リスク・アセット等の額の合計額 (ニ)	121,973	120,311
自己資本比率 ((ハ) / (ニ))	15.81%	16.25%

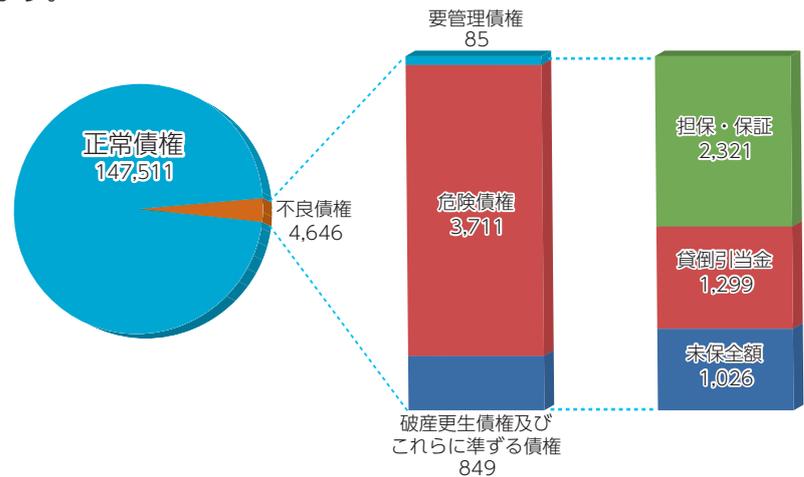
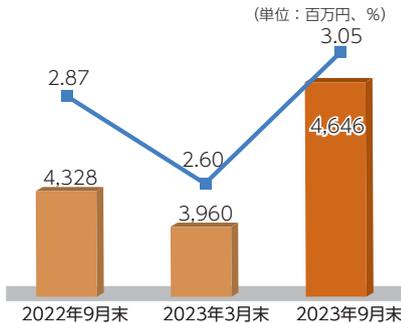
(注) 自己資本比率の算出方法を定めた「信用金庫法第89条第1項において準用する銀行法第14条の2の規定に基づき、信用金庫及び信用金庫連合会がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準(平成18年金融庁告示第21号)」に基づき算出しています。
なお、当金庫は国内基準により自己資本比率を算出しています。

不良債権の状況

不良債権とは利息や元金が返済されなくなる可能性の高い貸出金等のことをいいます。

金融再生法に基づく不良債権額は2023年3月末比で685百万円増加し46億46百万円で、不良債権比率も0.45ポイント上昇し3.05%となりました。この不良債権額のうち、担保や保証、貸倒引当金により36億20百万円は保全されており、保全されていない10億26百万円は特別積立金177億円で十分にカバーされており、不良債権への対応には万全を期しております。

不良債権残高・不良債権比率



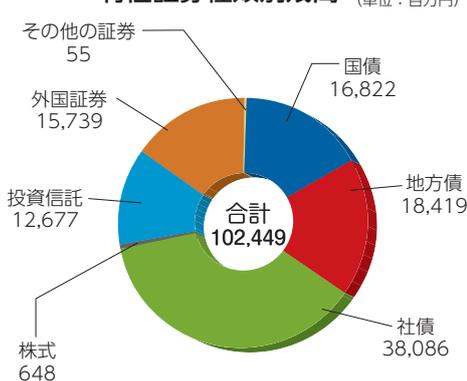
有価証券の状況

安全性を重視した運用を心掛けています。

有価証券残高は、1,024億49百万円。2023年3月末比11億48百万円減少しました。

(単位：百万円)

有価証券種類別残高



		2023年3月末			2023年9月末		
		簿価	時価	差額	簿価	時価	差額
その他 有価証券	株式	723	735	12	536	648	112
	債券	73,028	72,038	△ 989	75,370	73,143	△ 2,226
	その他	32,712	30,824	△ 1,887	30,702	28,472	△ 2,229
	小計	106,463	103,598	△ 2,865	106,609	102,264	△ 4,344
満期保有 目的 有価証券	債券	—	—	—	185	185	—
	その他	—	—	—	—	—	—
	小計	—	—	—	185	185	—
合計		106,463	103,598	△ 2,865	106,794	102,449	△ 4,344

(注) 1. 時価のあるものについては市場価格等に基づき、時価のないものについては帳簿価格等によって記載しております。
2. 「差額」は、2023年9月末時点の帳簿価額(償却原価法適用後)と時価との差額を計上しております。
3. 「その他」は、外国証券、投資信託及びその他の証券です。

2023年度上半期トピックス

7信用金庫による「中部横断自動車道開通に伴う連携に関する協定書」を締結しました

9月19日



当金庫は、2021年11月30日にしずおか焼津信用金庫、山梨信用金庫、甲府信用金庫、諏訪信用金庫が締結した「中部横断自動車道開通に伴う連携に関する協定書」へ、新たに長野信用金庫、松本信用金庫とともに加入いたしました。

CO2排出量可視化サービス「e-dash」と業務提携いたしました

7月3日

CO2排出量可視化のクラウドサービス「e-dash」を提供するe-dash株式会社と業務提携し、取引先企業の脱炭素への取り組みを開始いたしました。国内企業の99.7%を締める中小企業が脱炭素化の流れに取り残されることなく、脱炭素化への取組を進めていくにあたり、各社の経営に一番に寄り添う金融機関が担う役割は重要であると考えております。



4月 交通安全「黄色いハンカチ」の贈呈

地域の新入学児童全員に「交通安全黄色いハンカチ（交通傷害保険付）」を贈呈しました。

7月13日 長野県佐久市立浅間中学校の「マイ・プロフェッショナル・プロジェクト」に参加

生徒の皆様金融機関の仕事内容について授業を実施いたしました。将来金融機関への就職を希望している生徒もおり、興味深く聴講しておりました。また、練習用の紙幣による札勘定など慣れないながらも、懸命に取り組んでおりました。

献血活動

6月21日

信用金庫の日にちなみ、当金庫役員26名が献血活動に参加しました。



第26回 信用金庫社会貢献賞の会長賞を受賞しました

6月21日

上田市、上田商工会議所、有限会社和晃、上田バス株式会社、上田電鉄株式会社、当金庫をコアメンバーとして立ち上げた「上田市公共交通キャッシュレス化プロジェクト」をはじめとする「上田市スマートシティ化計画の推進支援」が第26回信用金庫社会貢献賞の最高賞に当たる会長賞を受賞し、6月21日に開催された全国信用金庫協会通常総会の議事に先立ち、表彰を受けました。本賞は、全国の信用金庫の取り組みの中から、最も社会（営業エリア地域）に貢献したプロジェクトに与えられるものであります。今後も取引先事業者の課題解決、本業支援、また長野県東信工エリアの発展のため取り組んでまいります。（敬称略）



当金庫の概要（2023年9月30日現在）

- 本店所在地：上田市材木町一丁目17番12号
- 創立：1922年（大正11年）12月2日
- 会員数：20,170名
- 出資金：7億17百万円
- 預金積金：2,993億56百万円
- 貸出金：1,504億01百万円
- 常勤役員数：224名
- 店舗数：23店舗

 **上田信用金庫**

<http://www.ueda-shinkin.jp/>

編集・発行 上田信用金庫 総合企画部
〒386-0014
長野県上田市材木町1丁目17番12号
TEL.0268-22-6260

